

持続可能な社会の創り手を育む

「持続可能な開発のための学び（ESD）」の実践に取り組む東京都葛飾区立青戸中学校（沢田秀夫校長、生徒486人）は1日、研究発表会を実施した。ESDの取り組みで目指すのは将来の社会の創り手を育むこと。その手だてに「主体的・対話的な学習の過程」を導入し、各教科等の授業改善にもつなげている。

社会で注目を集めるSDGs（持続可能な開発目標）。同校は区教育研究指定校として、「SDGsの実践を通して生徒の変容」をテーマに研究をスタートさせた。

重点に置くのは、SDGsの理念に含まれる「誰一人取り残さない」「持続可能な社会」の実現を目指して行動できる人の育成。それが実践のベースになっている。

授業は、主体的・対話的に学ぶことを重視。そのため、「学びに火をつける」↓「調べる」↓「まとめる・実行する」↓「伝え合う」の四つの学習過程を取り入れた。

例えば、「学びに火をつける」の過程で最初に行うのは、体験や資料から感想

四つの学習過程 学びに火をつける→調べる→まとめる・実行する→伝え合う

などを述べ合う活動。その向き合う意識を高めてい自ら取り組む学習問題をつ中で生まれた疑問を自分でく。気になる点などは分類くるとい流れになっていくとして感じさせ、学びと整理してまとめ、生徒がる。

3年「総合」 屈指の観光地 京都・奈良取り上げ 交通、ごみ問題など考える

研究発表会では、3年生から多くの人たちが訪れるこそ生じる社会的問題を調が総合的な学習の時間の活日本屈指の観光地として知べ、その中から生徒一人一人の成果を発表した。世界られる京都と奈良。だから人々興味・関心のある問題を取り上げた。



「総合的な学習」の発表で、京都・奈良の交通・寺社問題で質疑応答を行う3年生

研究発表会の当日、交通や寺社に関する問題、観光地のごみ問題など、六つのテーマごとに分かれて小集団で発表を行った。それぞれが調査し、検討した内容を1人約2分でプレゼン。その後、同じグループのメンバーで質疑応答を行った。

「将来も観光地として続けていく」というESDの視点を念頭に置き、学習を進めてきた生徒たち。次時は学習の総括になる。それぞれの発表を通して知った友達の考えを生かし、自分の意見をレポートにまとめていく。

1年社会 浄土信仰広まった背景探る 空也上人の画像への疑問、入り口に

持続可能な社会の創り手 信仰が広まった背景を考え「伝え合う」を中心に行わの育成に向け、各教科でもる社会科の授業（歴史的な過程）を取り入れている。野も、その一つだ。本時導入では、浄土信仰を研究発表会では各教科の習過程」の位置付けで、て、「気になること」を各授業も公開。例えば、浄土「まとめる・実行する」と自のタブレットに入力。生



ジャムボードの付箋機能で空也上人に関して気になることを共有する1年生

教員の意識、学力が向上

生徒たちの考えを共有するた。空也上人の人間性などに触れた後、教科書内容にある「誰に教えを広めたのか」や「なぜ広めたのか」という考える活動につなげた。空也上人を基に、平安中期がどのような時代なのかをまとめていく。

「なぜ、口から6体の仏像が出てくるのか」「なぜ、こんなに粗末な衣なのか」など、気になる疑問の答えをグループで話し合った。その答えは教員が解説した。公開授業後、同校はこれまでの成果と課題を報告した。成果については①教員の意識向上②学力の向上③生徒の主体的・対話的な意識の高まりを挙げた。このうち①は、生徒自身で考えることができる学習範囲を「ほぼすべて」と答える教員の割合が、昨年度よりも15%アップした。②は、3年生が区の学力調査（数学）の図形とデータ活用で、特に成果を出していることを取り上げた。

課題の一つとして挙げたのは、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえて指導計画を作成すること。「主体的・対話的な学習過程」の4過程のうち、「伝え合う」の取り組みを重視し、スパイラル学習を実践することの必要性にも触れていた。